

その空白へ相手のレコード番号を記録しておけばよい。項目の内容、たとえば植物名、に変更があるときは、レコード番号を添えて公表すれば、誤解なく伝わるだろう。

今後追加されるレコードにはレコード番号を与えないでおく。このデータベースは今後複数の人や場所で扱われる可能性があるの、互いの連絡なく番号を与えれば、混乱の元となる。ある時期がきたら、どこか一箇所にそれらを集め、マージさせようとして追加のレコード番号を与えるようにすればよからう。

24. 位置座標系識別コード。現在採用されている位置座標は Locality Index だけだが、今後は国土基準メッシュだの経緯度など、多様なメッシュ系記録を混在させ得るようにしておかないと、データの互換がやりにくい。そのために、どういう系のコードを使っているかを示す項目が必要である。私が現在使っているのは、Locality Index (C)、三次メッシュ(K)、経緯度の分(U)である。

25. 科の配列番号。リストを作るとき(たとえばチェックリスト)、なんらかの分類系に従って配列する必要がある。そのためには分類系の中の配列順序をもつ項目がなければならない。現在のデータベースにはこういう項目がないから、必要なときには科の学名をシソーラスとマッチングさせ、その番号と入れ換えて用いている。現在、科の項目には、科学博物館の配列番号が入っている。こういうやり方でもかまわないのだが、数字になってしまうとどういう科であるかがわからないので不便である。だから、科の学名と共に分類系内の配列番号が入っているほうが有用である。ただし、科名を変えるとその番号も変えねばならないので、管理に気をつかわねばならない。

C. データの訂正

植物誌に記したように、このデータベースにはたくさんのエラーが含まれている。誰もが安心して使えるためには、できる限りそれらを正しておかねばならない。とは言っても、こういうことを集中してやることはとてもできないので、時間をかけて少しずつ改善して行くしかない。差し当たり、採集者名と年月の対応に矛盾

のあるレコードをチェックしてもらおうと考えている。現在のデータベースでは、多くの方々はきわめて幼少の頃から植物誌に貢献していることになっており、中には生まれる前から熱心に採集しているという記録もある。これらは少しずつまとめて、該当する方に送って訂正確認を求めようと準備している。これをやる過程で、カナ書きではわからない採集地名の漢字化も実現できるので、データベースの改善に貢献するところが大きい。

もう一つ頭が痛いのは、地区コードと位置座標の矛盾であるが、これは今のところ訂正の手段を思いつかない。うまい方法があったら、教えていただきたい。

長野県植物誌の未確認種について

金井 弘夫(小金井市前原町5-8-7)

Hiroo KANAI: On some unconfirmed species

次の5種について手元の資料で調べた情報を記す。

ハマエンドウ：飯山市でハマエンドウの群生地発見。植物と自然5(9): 35 (1971)。

ヤマアイ：歌川義男 軽井沢採集記 野草17(148): 5 (1951)。原・金井。日本種子植物分布図集1. Map 25(1958)では「誤りと思う」とコメントあり。野草復刻版(1985)では削除されている。

イワナンテン：原・金井。日本種子植物分布図集1. Map 38(1958)には木曽谷に2ヶ所文献マークあり。出典は記録されていない。奥山春季：原色日本野外植物図譜(1958)には、長野県南部に1分布点あり。

ヒメシヤラ：原・金井。日本種子植物分布図集1. Map 29(1958)には木曽谷に1ヶ所文献マークあり。記事には「坂口勝男。木曾御料林及其付近の植物(1941)にも本種がでているが検討を要する。」とある。マークの出典がこの文献であるか否かは不明。

アマチャ：信濃町富ヶ原で栽培。1996年、車で通りすがりに土地の人に「あれがそうです」と教えられたもの。